

文化経済部会 第1回文化芸術カウンシル機能検討ワーキンググループ資料

文化芸術の自律的・持続的な発展に資する 公的支援の在り方について

令和5年1月30日（月）
文化庁文化経済・国際課

第1回WG 本日の議題

1. 本WGの目的
2. 文化庁による文化芸術支援
 - (1) 補助金による支援
 - (2) その他支援
3. 社会的インパクト評価について
(資料4：梅原委員より)
4. 想定される支援について (仮説)
5. 本日議論いただきたいこと

1. 本WGの目的

本WGの目的

文化芸術組織の自律的・持続的な発展を支える公的な支援の在り方について検討する。

具体的な検討事項

- (1) 支援対象
- (2) 支援方法
- (3) 実施主体、枠組み
- (4) 評価・検証及び次年度への反映方法
- (5) 実証事業の内容及びアクションプラン

スケジュール

令和5年3月に一定の方向性を示す



直近の課題

- ・令和5年度に文化芸術組織の自律的運営促進事業を実施
- ・令和6年度の芸術文化分野の補助金要領（令和5年度に募集開始）の一部に反映

文化と経済の好循環を実現する文化芸術の「創造的循環」概要（第1期文化経済部会報告書、令和4年3月）

文化と経済の好循環

二つの「創造的循環」によって、資金が確保されるとともに文化芸術活動を促進し、さらに再投入の資金を生み出す「文化と経済の好循環」を実現する。

文化芸術の循環システムの構築 自律的で持続可能な経営



第1の「創造的循環」

文化芸術活動（「樹木」）を生み出す「土壌」を豊かにする循環

- (1) 創造的人材の持続的な育成
- (2) 「土壌」としての地域、場所
- (4) ファンドレイジングと税制措置
- (5) 文化芸術DXの推進
- (6) 文化芸術活動と担い手に関する公的統計・データ整備とアーカイブ

第2の「創造的循環」

文化芸術活動（「樹木」）を「保育」し、価値を高めて行く循環

- (3) マーケティング、ブランディング、プロモーション
- (7) グローバル市場への積極的な関与

創造的循環達成のための「7つの渦」

具体的なアクションプラン案（報告書p.18～）

【文化芸術循環システムの構築】（基盤的施策）

- ① 文化芸術全般を振興する**カウシル機能**（伴走型支援機能）の確立・強化の検討
- ② 文化芸術/ソフトパワー・プロモーション強化に向けた**関係機関の連携強化**

(1)

- ① ワザの学修プログラム、②アーティスト等の就労環境の改善
- ③プロデュース人材の育成

(2)

- ①地域芸術祭等のエコシステムの検証、②歴史的建造物等を地域で持続的に産業として育成する仕組みづくり
- ③中間支援組織等の形成支援、④海外富裕層の誘致

(3)

- ①発信強化、②グローバル（デジタル）マーケティング、③民間活動支援、④海外富裕層の誘致、⑤世界誘客の場づくり、⑥鑑賞者教育

(4)

- ①文化芸術への寄附促進、②寄附マッチング、③コレクターと美術館の関係強化、④動画制作のインセンティブ

(5)

- ①文化ビジネスのグローバル化推進、②新たなテクノロジーへの対応
- ③ブロックチェーン等を活用した美術品の来歴管理

(6)

- ①文化芸術関係統計データの整備、②国内アーカイブの連携
- ③ナショナルコレクションの形成、④公的鑑定評価制度の創設

(7)

- ①トップアーティストの育成、②文化ビジネスのグローバル展開
- ③国立館のパートナーシップ強化、④東アジアワイドでのプロモーション強化

【基盤的施策】-① 文化芸術カウンスル機能の強化（エコシステム形成・発展）

構造的課題

既存・新規を問わず文化芸術領域の課題を把握・解決し、文化芸術活動が自律的・持続的に発展していく環境作りを、より強力・効率的に行う余地があるのではないか。

方向性

強化するカウンスル機能のモデルを明確化。資金供給を含め総合的振興を伴走型で実施か。我が国の文化芸術領域全般を広くバランス良く支援し得るカバレッジか。地域にも立脚して、現場に近いところでの支援を目指すか。

アクションプラン

「文化経済戦略推進事業」（文化庁）の成果をもとに、令和4年度以降、具体的なパイロット事業を始め、同時にノウハウを持って専門的にカウンスル機能を果たす機関の設計や体制づくりを目指す。

目指す結果

- 1) 文化芸術分野の支援方法を確立。例：プロジェクトベースの場合は効果測定を明確にし、組織ベースの場合は運営の改善につながるコンサルティングを伴走型で実施する。
（KPI：対象の予算に占める補助金比率）
- 2) 幅広い分野を支援対象とする。
（KPI：支援対象分野ごとの割合）
- 3) 地域ごとに支援できる体制を整え、地域に寄り沿った支援を可能とする。（KPI：補助対象地域ごとの割合、補助する中間支援組織の実数）

スケジュール

短期

R4年度 パイロット事業実施
WGの設置・検討

R5年度～ 実証事業実施

中期

R7年度～スキームの試行的導入

長期

R10年度 スキームの本格導入

英国・米国等における文化芸術の社会的・経済的役割の動向

◆文化芸術を社会・経済の中心として捉えなおすことにより、社会・経済の好循環が生まれ出される。

1960年代～

●国民の福祉として「守るべき」文化芸術 = 補助の対象

【コスト病】

1910年 1950年

工業製品 効率化

四重楽奏 必要な人的資源は変わらず

Baumol & Bowen (1966)

文化芸術は、生産性の向上余地が低い

↓

相対的に高コストとなり、鑑賞コストも増

↓

支援が必要

1980年代～

●行政のコスト削減とマーケティング・ツールとして民間活用の拡大

【ニュー・パブリック・マネジメント】

英国のサッチャー政権をはじめ、緊縮財政と民間活用を狙った規制緩和や、行政組織の民営化などが進んだ。文化芸術への支援も削減されたが、民間が支援しやすいように税制優遇などの制度が整えられた。一方、文化の大衆化への批判もある。

1990年代～

●文化芸術が経済の中心に = 投資の対象

【クリエイティブ産業】
英国を中心に新たな輸出産業として振興（1997～）。高い成長率、観光等他産業への波及効果、ナショナル・プライドの創出等。

【クリエイティブ都市】
主要産業が衰退していたグラスゴーでは、1990年の欧州文化首都選定をきっかけに、クリエイティブ都市戦略を策定。アーツセンター、芸術大学創設、シアター支援等により新規雇用5,000人、観光客81%増、3.9%の経済成長等を達成。

【クリエイティブクラス】
知的業務従事者。全産業の31%（2008年、米国）を占め、今後も高い伸び率。

創造的芸術（アート、音楽等）
クリエイティブ産業（映画、写真等）
関連産業（広告、デザイン等）
その他産業

D.Throsby (2001)

2010年代～

●社会幸福のための文化芸術

【Culture 3.0】
高等芸術（Culture 1.0）の大衆化（Culture 2.0）を経て、誰もが文化芸術の担い手になった状態。文化芸術がすべての活動のハブ／プラットフォームに（YouTube等）。

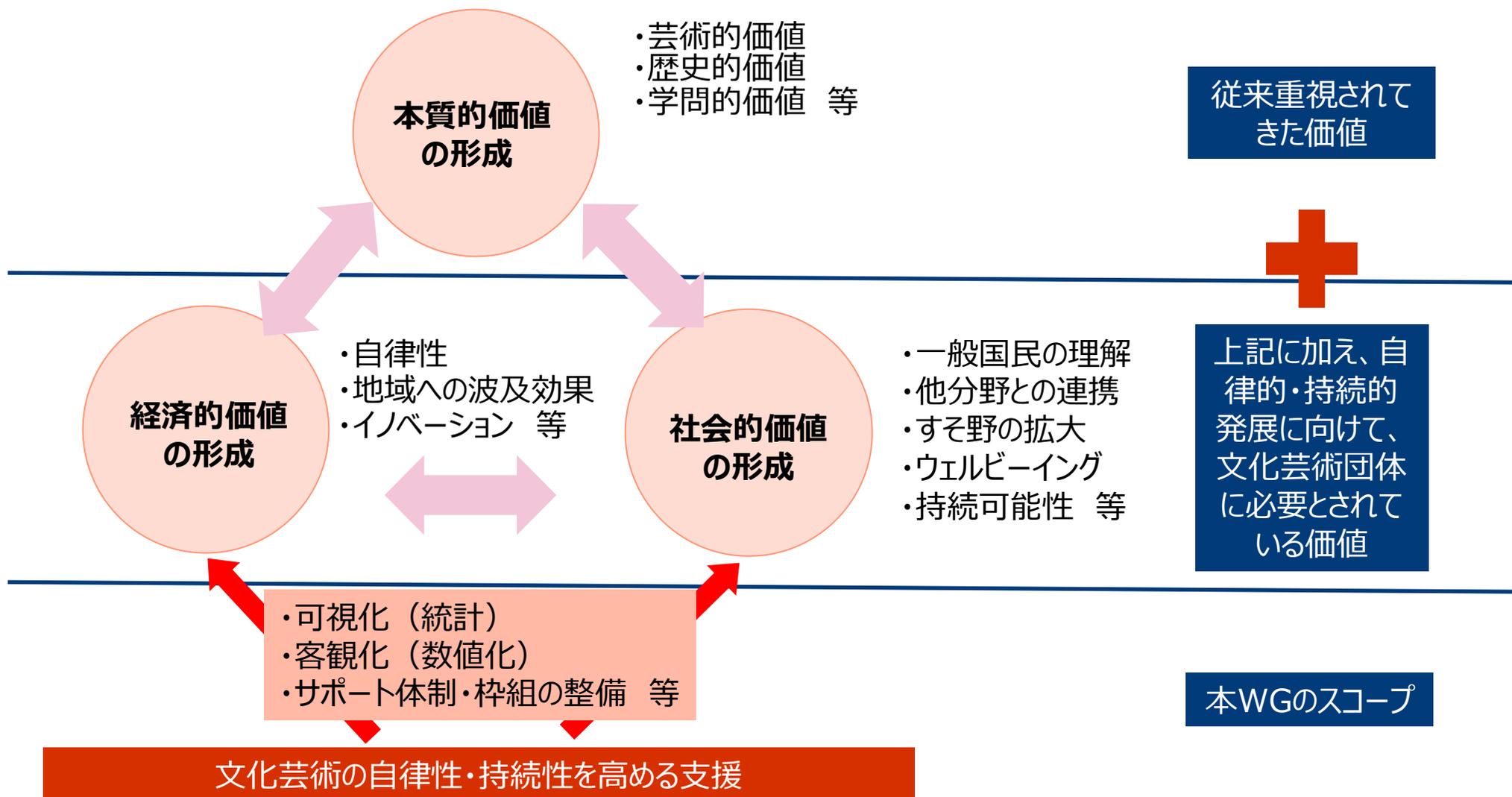
↓

社会問題を解決する手段として、文化芸術を活用

・健康 ・イノベーション
・持続可能性 ・社会的結束

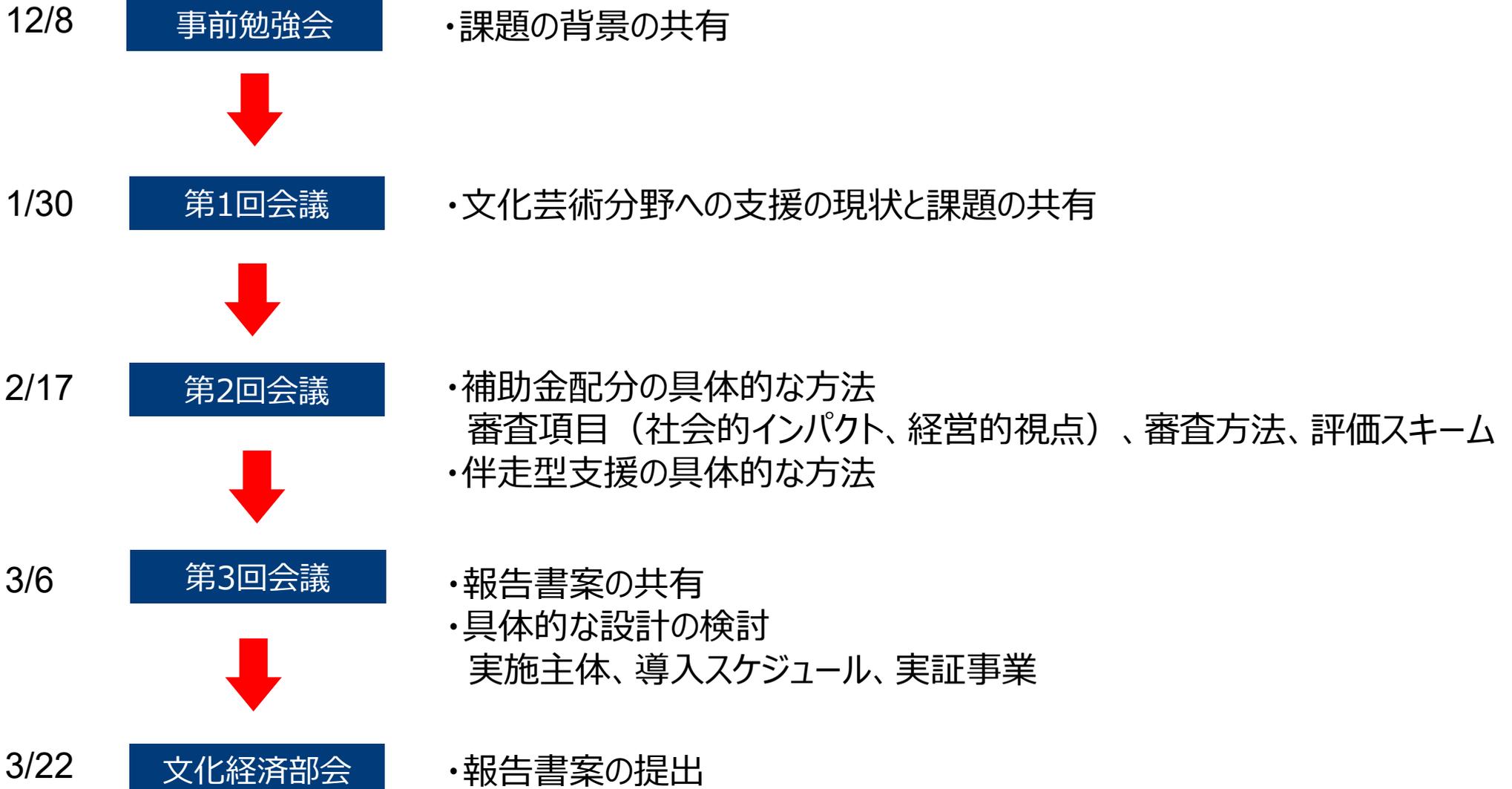
文化芸術推進基本計画（第2期）の方向性と本WGの目指すもの

- 文化芸術においてはこれまで本質的価値が重視されてきたが、本質的・社会的・経済的価値をバランスよく向上させることが自律的・持続的な成長には必要。
- 本WGでは、文化芸術推進基本計画（第2期）（R5～）を議論している文化政策部会においても重視されている文化芸術の社会的・経済的価値を可視化し、評価し、向上のサポートをすることを通して、文化芸術組織の自律的・持続的な発展に資する方策を検討する。



3月までに検討すること（1/30現在・予定）

- 3月に一定の方向性を提示。



① 文化芸術の自律的運営促進事業

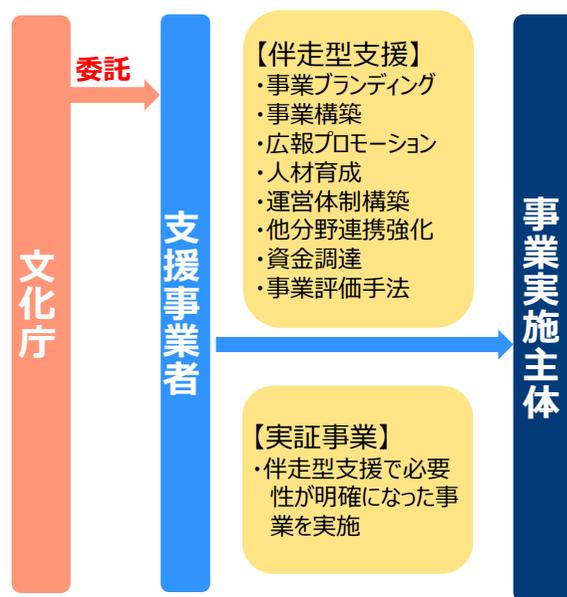
背景・課題

令和3年12月に文化審議会に新設した文化経済部会では、文化芸術の持続的発展のためには、文化芸術の土壌を耕し、活動の基盤をすることにより、新たな文化芸術を生み出すこと、生み出された文化芸術を価値づけし、需要を作り出すことによって、投資の機会を作り、さらに土壌を耕す原資とする「創造的循環」を作り出す「文化芸術のエコシステム」を構築すること、また、そこへの支援が必要と報告された。本事業では、エコシステム構築に向けた支援をどのように行うか、具体的な事業を対象に実証を行いながら、スキーム化を目指す。

事業内容 事業実施期間：令和5～9年度（予定）

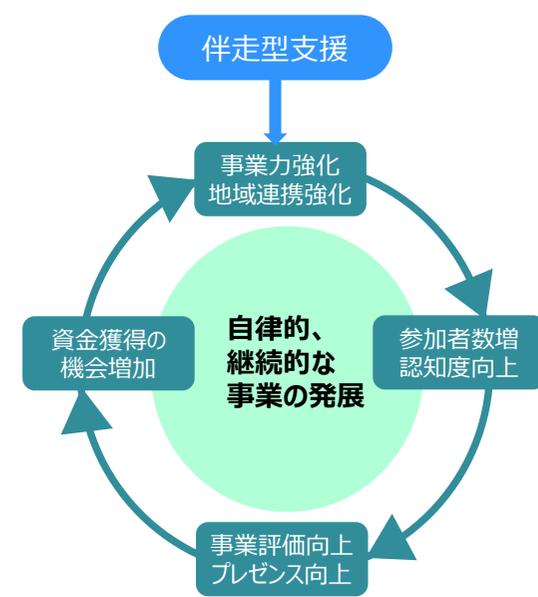
文化芸術事業を実施する事業主体が抱える課題の解決に向けた伴走型支援を実施する。まずは、文化芸術の組織や事業を取り上げ、そこに集中的にコンサルティングを行うことにより、既存組織／事業の効果を高める。併せて、課題解決に向けた実証を行う。必要に応じて、事業補助を行い、その効果検証等を共同で行う。

①事業運営コンサルティング	80百万円
20百万円×4事業 = 80百万円	
②実証事業等実施	72百万円
18百万円×4事業 = 72百万円	
③事務局運営等	11百万円



- 【伴走型支援】**
- ・事業プランニング
 - ・事業構築
 - ・広報プロモーション
 - ・人材育成
 - ・運営体制構築
 - ・他分野連携強化
 - ・資金調達
 - ・事業評価手法

- 【実証事業】**
- ・伴走型支援で必要性が明確になった事業を実施



アウトプット(活動目標)

- 支援実施事業数 (年間4件、総数(予定)20件)

アウトカム(成果目標)

初期(令和6年頃)：実証事業の中から実際に自律的運営を達成する事業をつくる

中期(令和9年頃)：文化庁補助事業のうち、全事業経費に占める補助金割合が50%以下のイベント／組織の数が増加。

長期(令和14年頃)：補助金によらない事業を文化芸術の各分野に一定以上の割合で形成する

インパクト(国民・社会への影響)、目指すべき姿

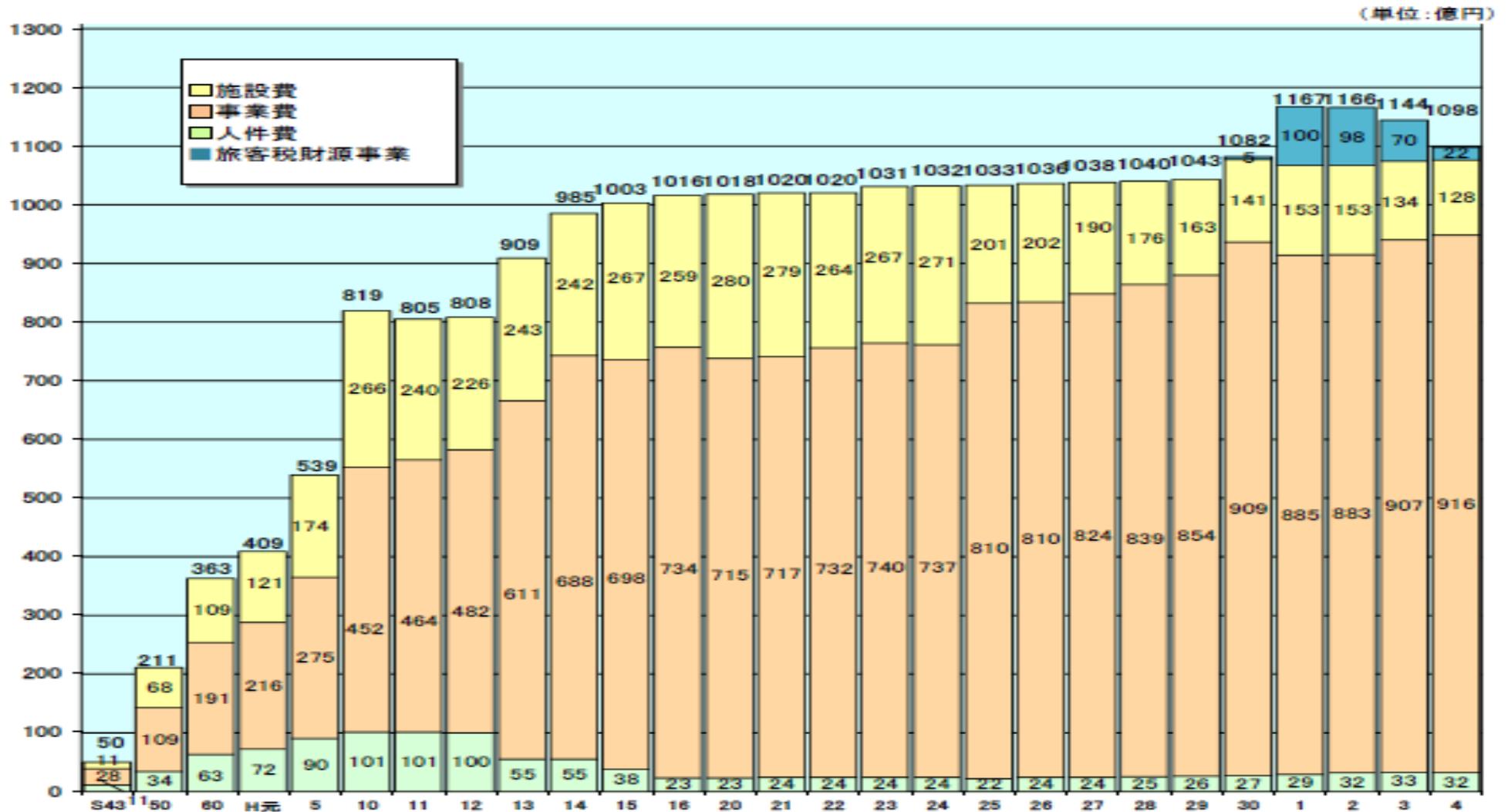
文化芸術領域の自律性を高めることは、補助金に頼らないだけでなく、事業の質を高めることにつながる。このことを通して、文化芸術領域が国民の支持・支援につながっていくことを目指していく。

2. 文化庁による文化芸術支援

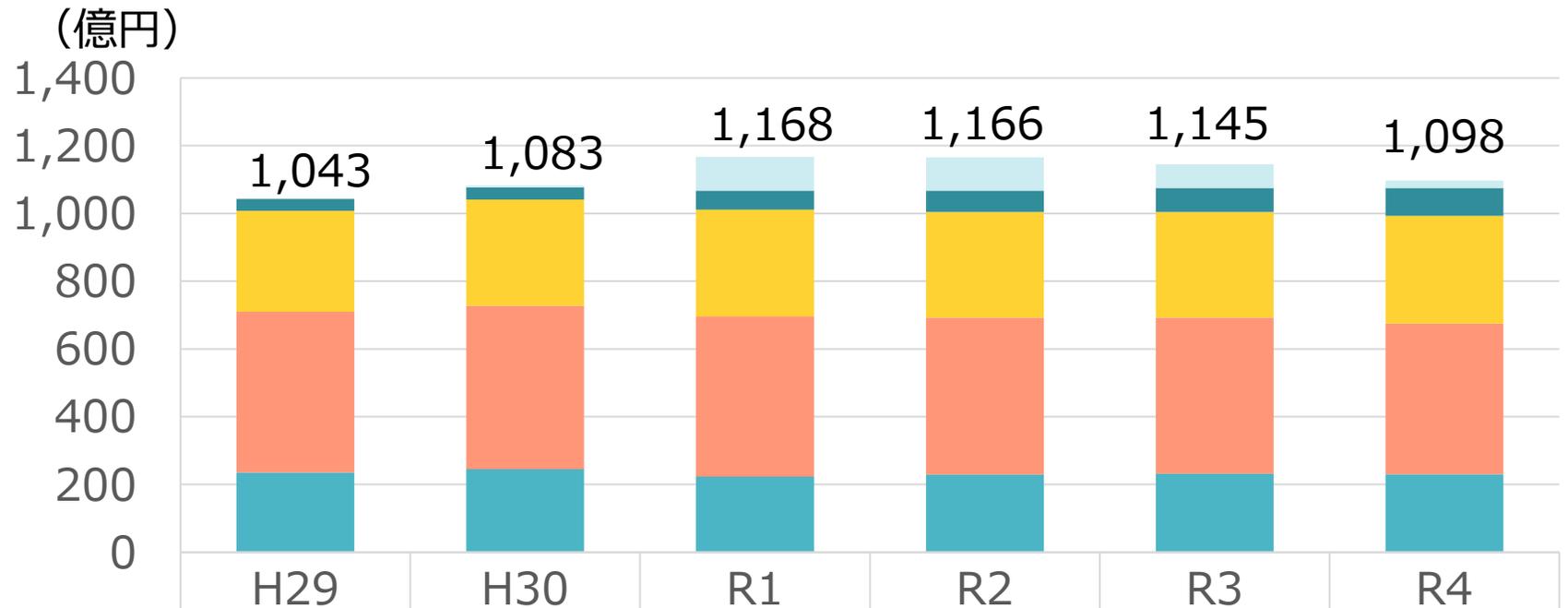
(1) 補助金による支援

文化庁予算の推移（費目別）

文化等予算は1000億円程度で微増。平成30年度より旅客税財源予算が付加される。



文化庁予算の推移（分野別）



旅客税財源予算	0	5	100	98	70	22
その他	35	36	56	63	71	82
国立文化施設関係	298	314	315	312	312	318
文化財の保護	475	482	473	463	460	445
芸術文化の振興	235	245	223	229	232	230

文化庁予算に占める補助金の割合

- 文化庁予算に占める補助金の割合は50%程度。うち、文化財補助金が補助金の70%強。
- 残り30%弱の文化芸術振興費補助金のうち50%程度は日本芸術文化振興会が配分。

(億円)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
文化芸術振興費補助金	135	141	143	141
うち（独）日本芸術文化振興会が配分している補助金	69	68	67	64
割合	51%	48%	47%	45%
文化財補助金	389	394	386	370
合計	525	535	530	511
文化庁当初予算額 （旅客税財源予算を除く）	1,068	1,068	1,075	1,077
上記に占める補助金の割合	49%	50%	49%	47%

文化庁補助金①

●文化芸術振興費補助金一覧（令和4年度141億円） ＊は日本芸術文化振興会が担当

文化振興費	舞台芸術創造活動活性化事業*	33.4億円
	障害者等による文化芸術活動推進事業	0.2億円
	国際文化芸術発信拠点形成事業	7.9億円
	地域の文化芸術の振興に資する取組	9.2億円
	劇場・音楽堂等機能強化推進事業*	21.6億円
	博物館機能強化推進事業	3億円
	日本映画製作支援事業*	7.4億円
	国際映画祭支援事業	0.7億円
	メディア芸術連携基盤等整備推進事業	0.6億円
	新進芸術家グローバル人材育成事業	3.3億円
	中学校における部活動指導員の配置支援事業	1.8億円
	国際芸術交流支援事業*	4.8億円
	アーティスト・イン・レジデンス活動を通じた国際文化交流促進事業	0.6億円
	日本アートの国際発信力強化	1.8億円
	外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業	4.6億円
「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業	0.8億円	
文化財保存事業費	美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等推進事業	0.2億円
	地域文化財総合活用推進事業	2.7億円
	地域文化遺産	11.6億円
	地域の文化財の保存及び活用に関する総合的な計画等策定支援	2.9億円
	世界文化遺産活性化	1.6億円
	ユネスコ無形文化遺産活性化	0.1億円
	地域のシンボル整備等	0.5億円
文化振興基盤整備費	文化観光の推進	19.5億円 ^{1.4}

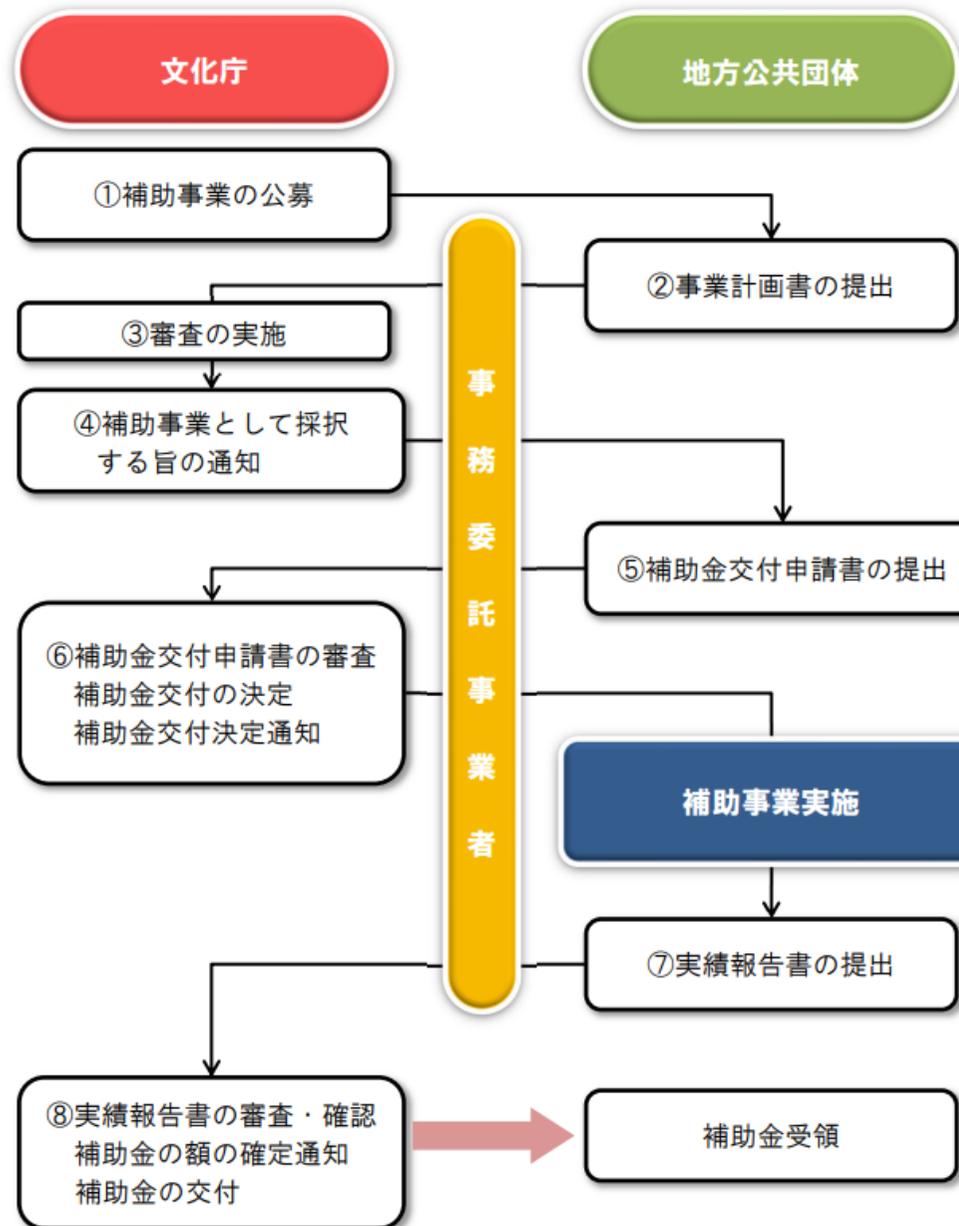
文化庁補助金②

●文化財補助金一覧（令和4年度370億円）

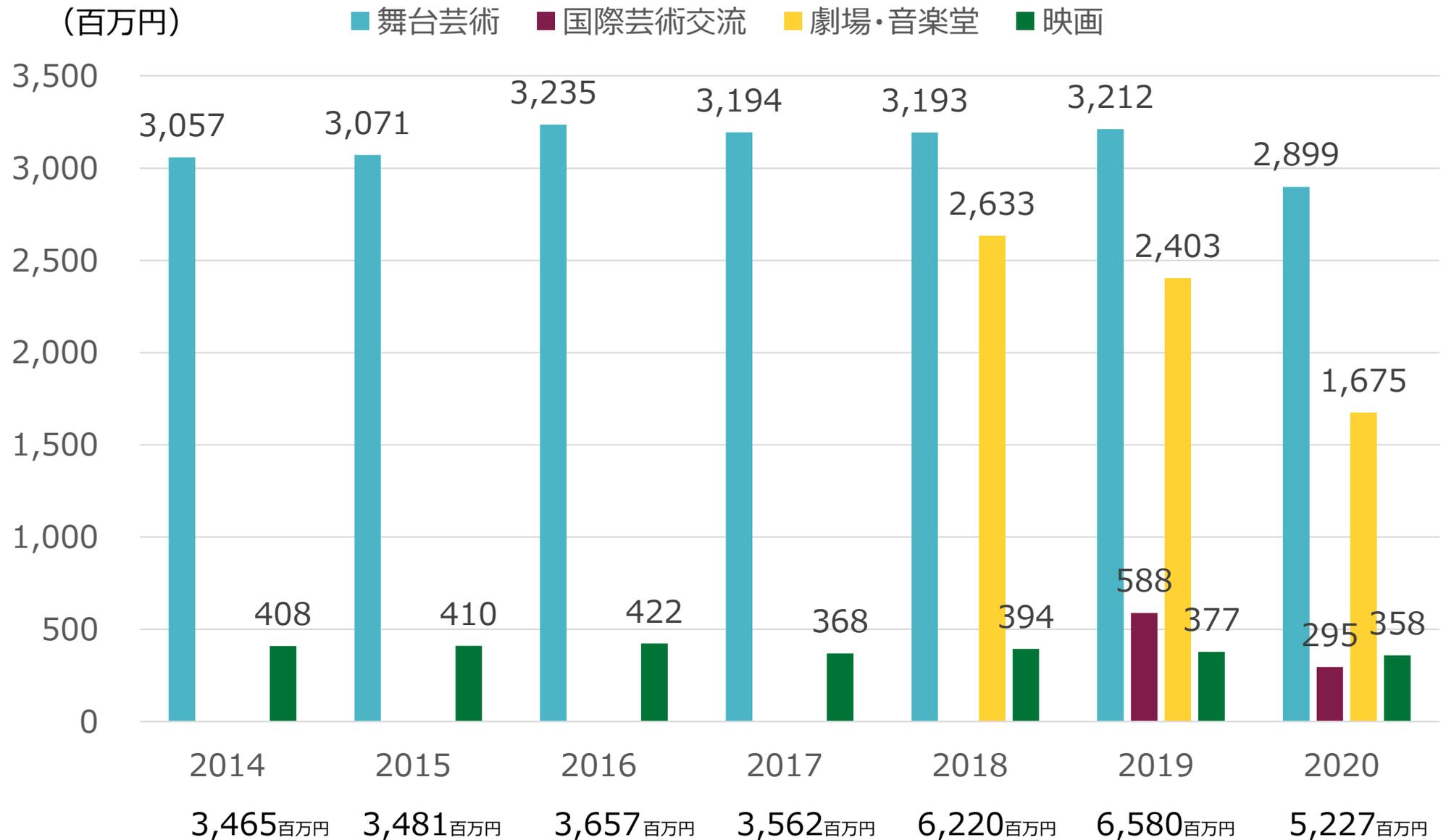
国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金	247.9億円
アイヌ文化振興等事業費補助金	2.2億円
国宝重要文化財等防災施設整備費補助金	17.6億円
史跡等購入費補助金	100億円
重要無形文化財保存特別助成金	2.3億円

文化庁補助金の配分スキーム

- 補助金ごとに補助要綱が定められ、それぞれ公募から補助金の交付まで設定している。

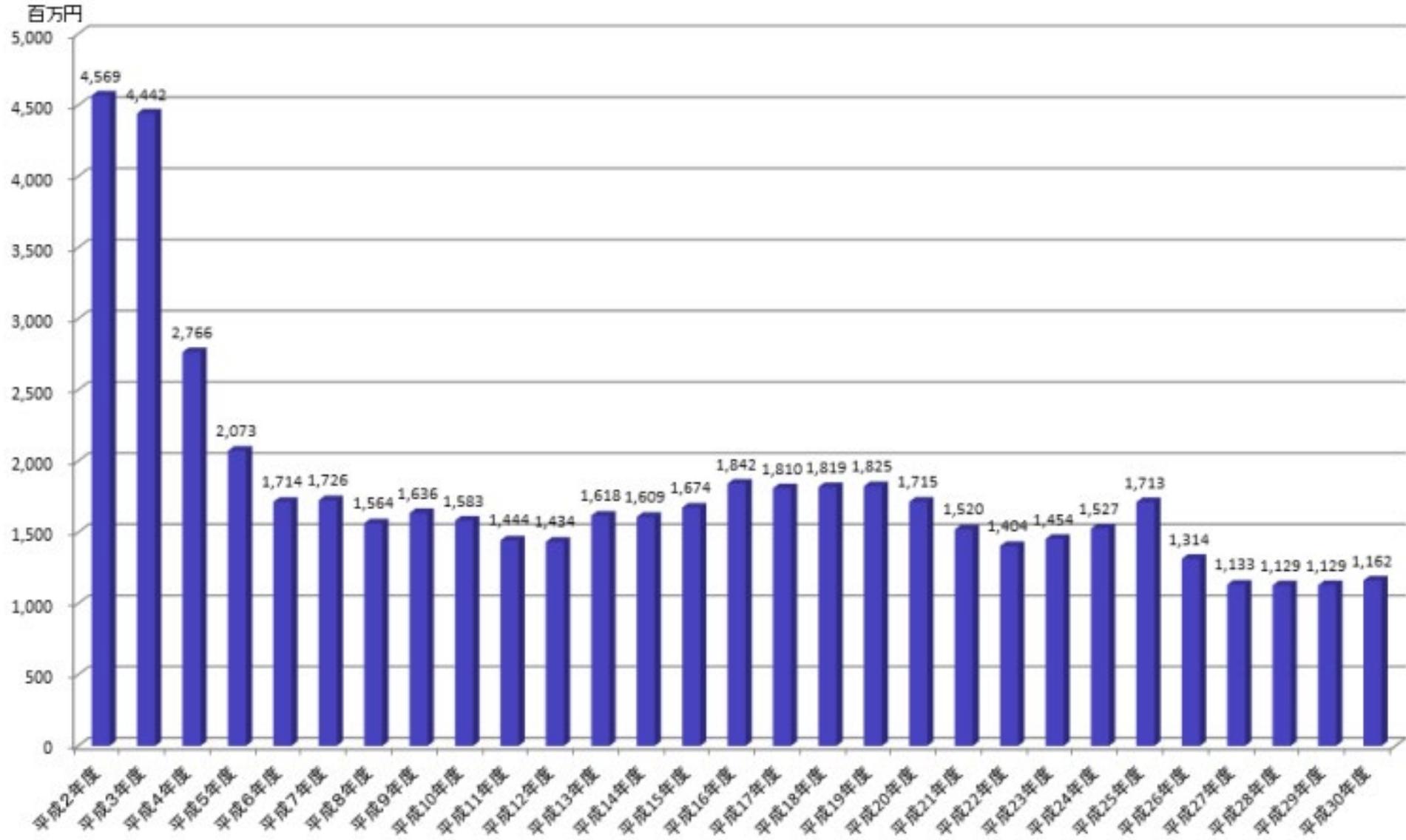


日本芸術文化振興会による文化芸術振興費補助金配分額の推移





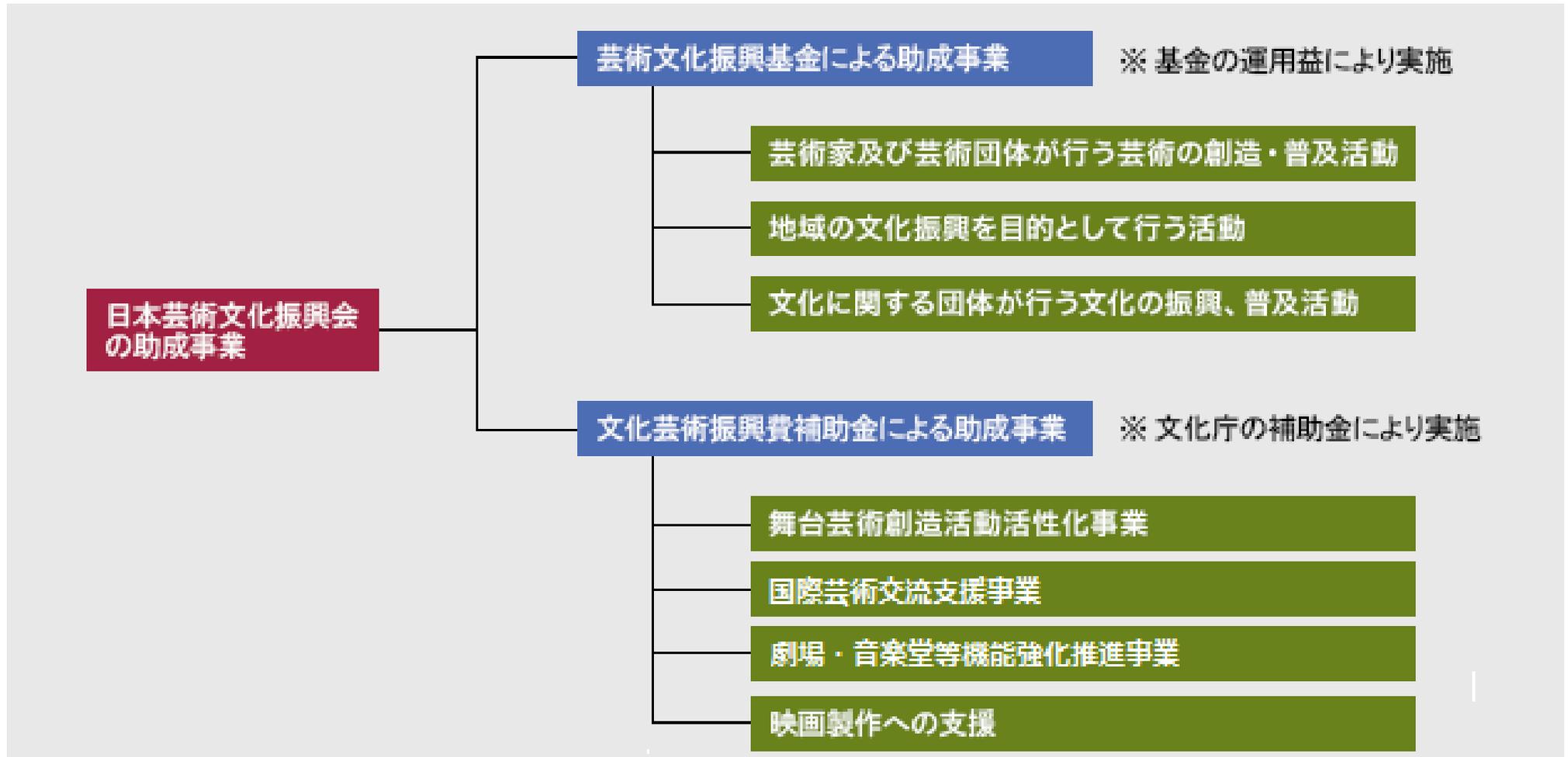
芸術文化振興基金運用益の推移



アーツカウンシル機能の今後の方向性について（報告書）（2021, 芸術文化振興基金運営委員会特別部会）

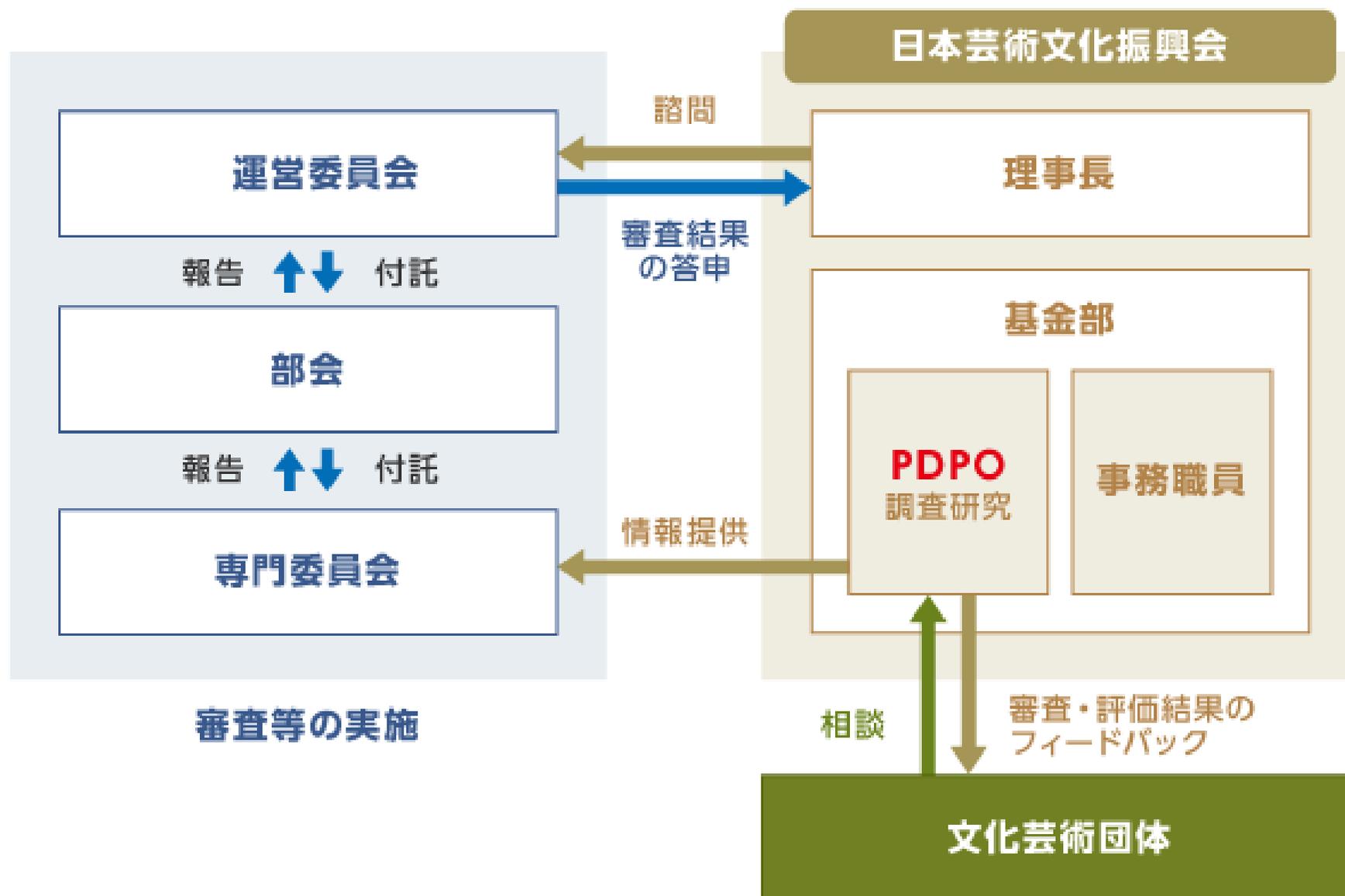
https://www.ntj.jac.go.jp/assets/files/01_topics/kikin/2021/tokubetsubukai/tokubetsubukai_houkokusyo.pdf

日本芸術文化振興会による文化芸術補助（基金＋補助事業）



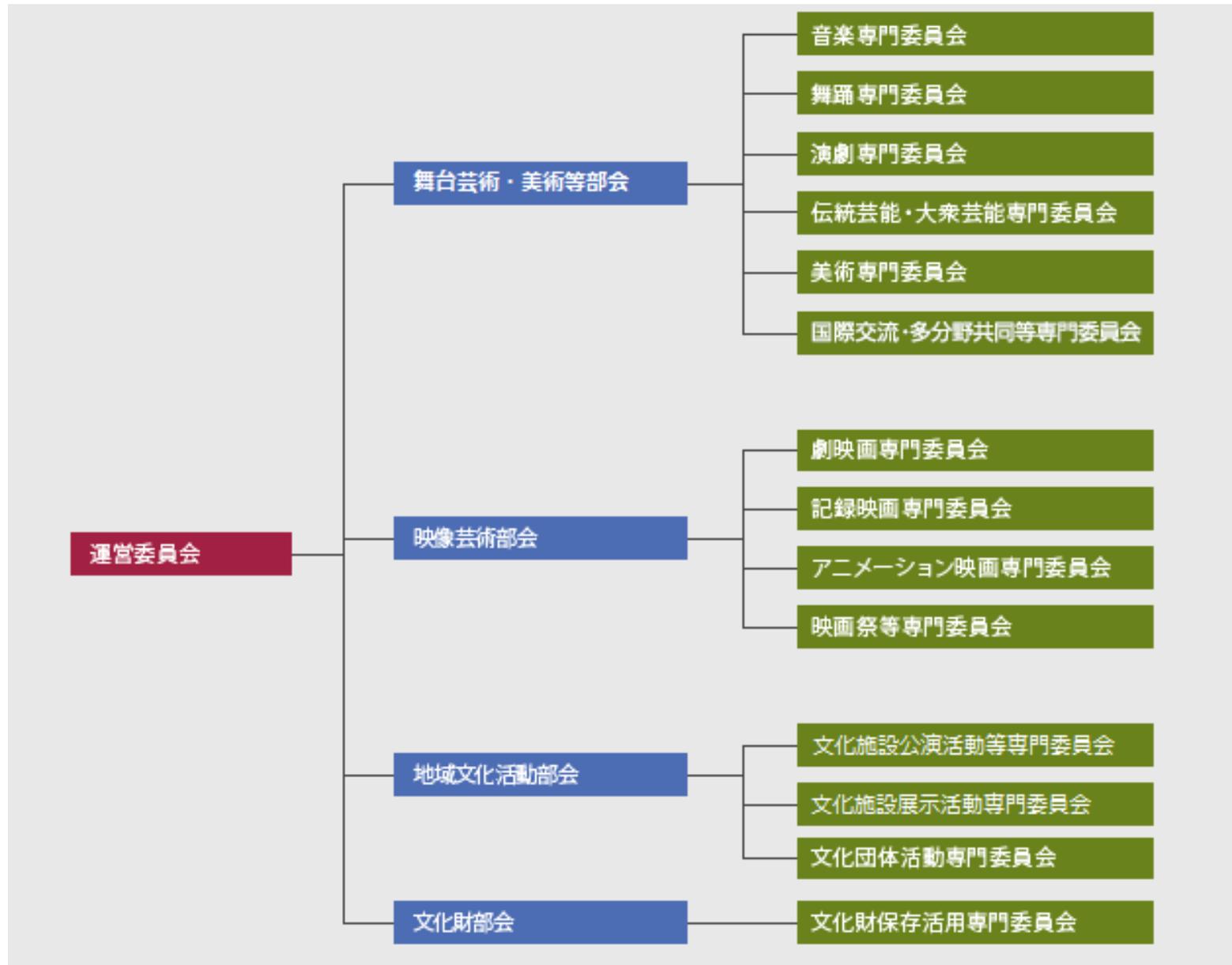
日本芸術文化振興会による配分スキーム

● 運営委員会から審査結果を振興会に答申



日本芸術文化振興会による審査体制

- 運営委員会のもとに各種部会、その下に専門委員会を設置してそれぞれ専門家が審査。



日本芸術文化振興会による審査基準

●令和5年度 芸術文化振興基金 現代舞台芸術創造普及活動（音楽・舞踊・演劇） 審査基準

【企画内容】

- ア 企画意図及び目標、内容が具体的であり、優れた企画性や創造性を有していること
- イ 企画意図及び目標、内容に沿って、芸術的成果を上げることが期待できること
- ウ 団体及び活動の今後の発展に期待が持てること

【運営・その他】

- エ 活動の予算積算が明確かつ適切であること
- オ 団体の運営が適正であること
- カ 観客層拡充等に努める活動計画であること
- キ 助成の緊要度が高い活動であること

日本芸術文化振興会による審査基準

●令和5年度 舞台芸術創造活動活性化事業（音楽分野）審査基準 公演事業支援（一般枠）

【芸術性・創造性】

（団体に対する評価）

ア 団体の掲げるミッション・ビジョンや過去の実績等から、高度な企画性、創造性及び発展性又は基礎となるべき伝統性が認められ、当該芸術分野を牽引することが期待できる団体であること。

（公演計画に対する評価）

イ 公演計画の企画意図は、団体の掲げるミッション・ビジョンに沿った明確なものであり、本助成事業の目的の達成に貢献すると認められるものであること。

ウ 我が国の芸術水準の向上に貢献することが期待でき、高い芸術水準において実現可能な公演計画であること。

エ 新たな創造活動（新作、新演出等）や優れた作品の再演等レパートリーの充実を図るなど、公演内容の充実を図る等の意欲的な公演計画であること。

オ 公演計画を構成するスタッフ・キャスト等に高い専門性が認められること。

【運営】

（団体に対する評価）

カ 団体の組織運営体制（意思決定や監査の体制を含む。）及び運営状況が適正かつ透明であること。

（公演計画に対する評価）

キ 予算積算等が適切であること。

【社会性】

（団体に対する評価）

ク 観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野に影響を及ぼすことが期待できる活動を行う団体であること。

（公演計画に対する評価）

ケ 公演等の対象（観客等）が社会的に開かれたものであり、観客の維持、育成に努める公演計画であること。

【その他】

（公演計画に対する評価）

コ 助成の緊要度について認められること。

2. 文化庁による文化芸術支援

(2) その他の支援

文化庁等によるその他の支援

◆調査研究

【文化庁】

年間数本の委託調査等を実施

例：令和3年度「文化行政調査研究」文化芸術の経済的・社会的影響の数値評価に向けた調査研究

【日本芸術文化振興会】

PD・PO・調査分析研究員を配置して、調査研究を実施

例：オーストラリアにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査

◆人材育成

次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 800百万円（R4）

トップアーティストのグローバル展開支援 374百万円（R4）

若手映画作家等の育成 168百万円（R4）

メディア芸術人材育成事業 253百万円（R4） 等

◆伴走型支援関連

文化経済戦略推進事業 29百万円（R4） 等

◆基盤強化

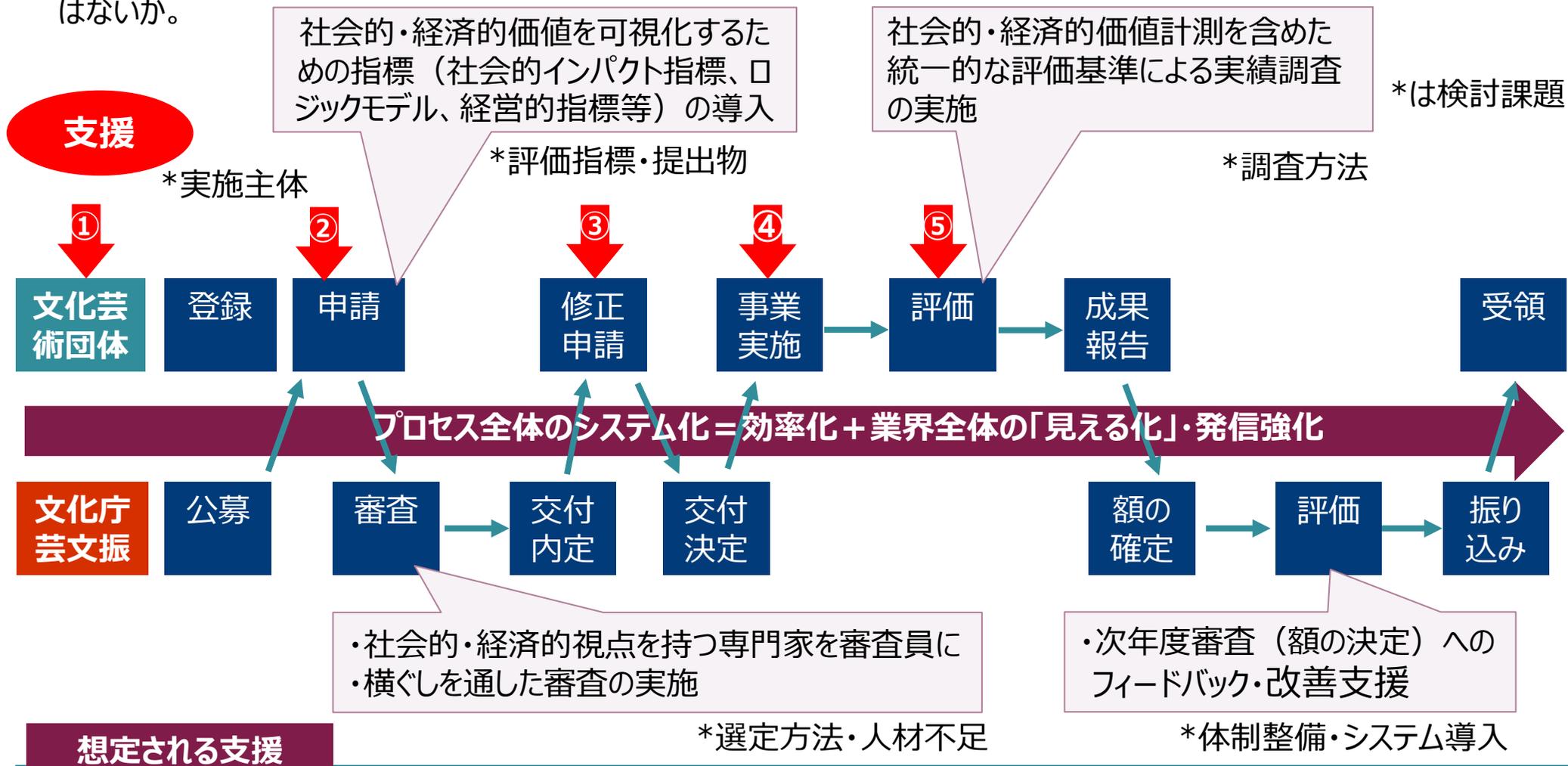
芸術家等の基盤強化 78百万円（R4）

3. 社会的インパクト評価について (資料4：梅原委員より)

4. 想定される支援について（仮説）

将来の文化芸術団体支援の全体イメージ（仮説）

- 「補助金配分プロセスの各所で新たな基準の導入や継続的な支援により、評価の次年度への反映を行うとともに、プロセス全体のシステム化による「見える化」・発信強化により、自律的・持続的な発展を促す補助金配分が実現できるのではないか。



想定される支援

- ① 調査研究・人材開発・マッチング（ex. マネジメント研修）
- ② 申請支援（ex. ツールキット、ガイドライン）
- ③ マネジメント支援（ex. ロジックモデル・KPI設定支援）
- ④ 様々な支援（ex. マーケティング支援等体制整備）
- ⑤ 調査・評価支援（ex. 調査・評価ツール）

想定される支援の現状の課題と仮説 ① 調査研究・人材育成・マッチング

● 調査研究

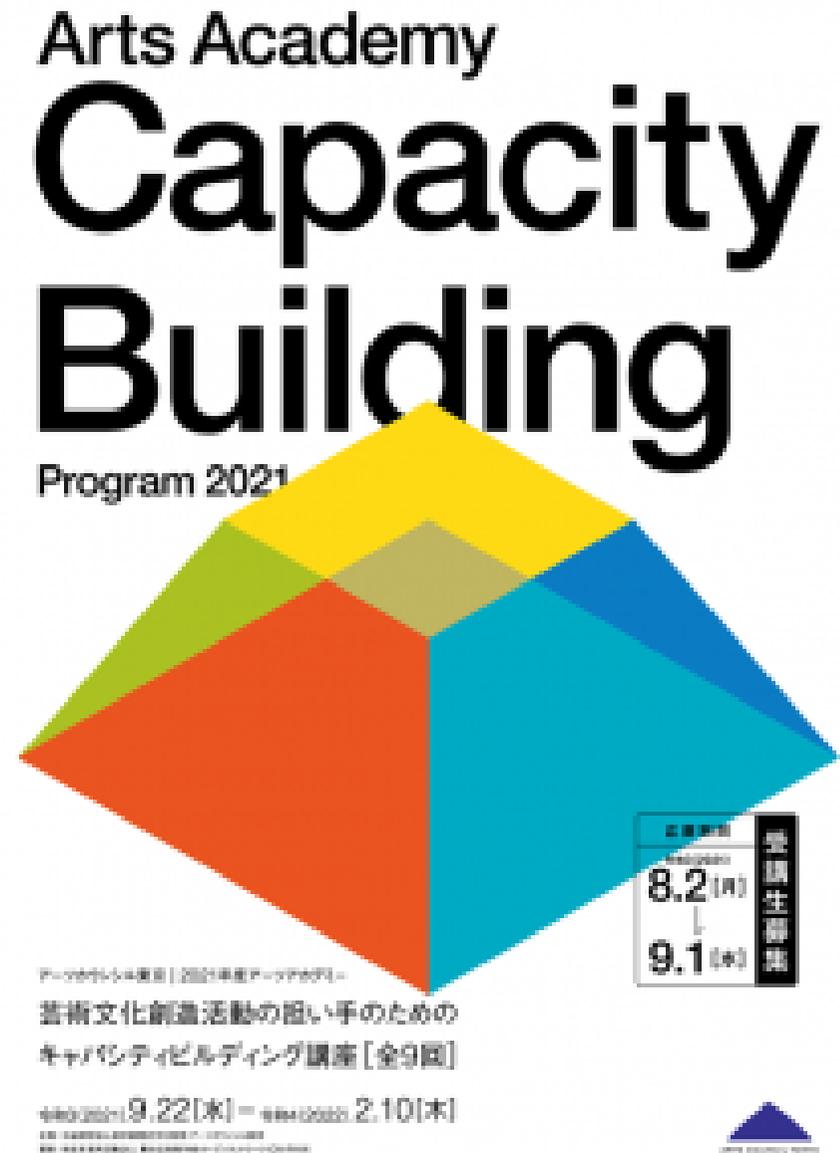
- 我が国の文化芸術活動の実態が可視化されていない。
→ 団体や担い手にかかる統計データ、データ分析が必要ではないか。
→ 補助金にかかる一連のプロセスのシステム化や入手した統計情報のオープンソース化
例：Arts Council England

● 人材育成

- 文化芸術活動にかかわる団体や人材におけるマネジメント等を向上する必要があるのではないか。
→ マネジメント人材の流入や人材開発が必要ではないか。
→ 人材開発にかかる事業や中間支援組織の造成
例：アーツカウンシル東京・キャパシティビルディング講座

● マッチング

- 文化芸術に関わりたい人・支援したい人と文化芸術団体がうまく結びついていないのではないか。
→ 結びつける仕組みやインセンティブが少ないのではないか。
→ マッチング支援やマッチングをする中間支援組織の支援
例：企業メセナ協議会・社会創造アーツファンド



Arts Academy
Capacity Building
Program 2021

受講期間
8.2(水) - 9.1(水)

受講生募集

アーツカウンシル東京「2021年度アーツアカデミー」
芸術文化創造活動の担い手のための
キャパシティビルディング講座 [全9回]
9月22日(水) - 9月23日(木)

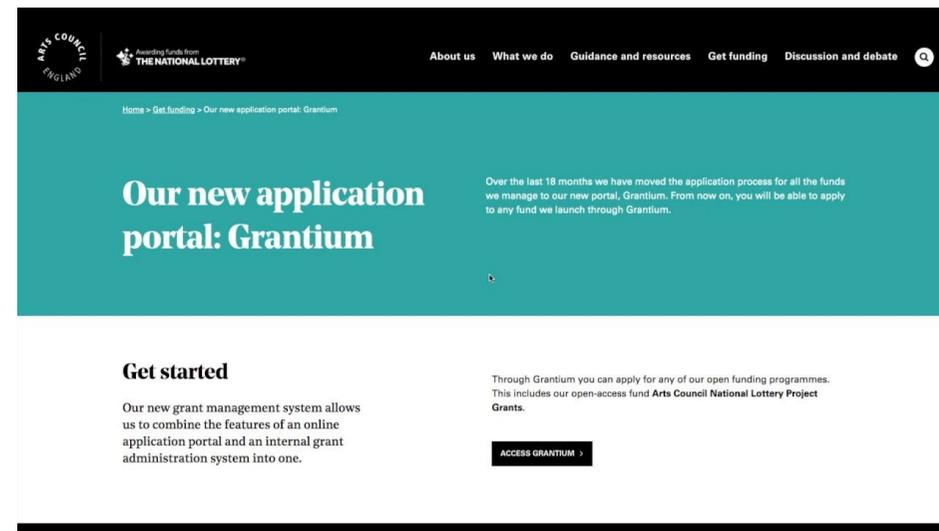
ARTS COUNCIL TOKYO

想定される支援の現状の課題と仮説 ②申請、③再申請

国として必要な情報が集積できていないのではないか。非効率な審査制度になっていないか。

●登録

- ・補助金を申請できる資格があるのか審査。
登録情報例：団体名、団体情報（財務情報、経営情報等）、銀行口座
- ・団体支援と事業支援の資格制度など検討



GRANTIUM（アーツカウンシルイングランド助成金申請システム）
(<https://www.artscouncil.org.uk/grantium-support>)

●申請

- ・要件を満たす補助金を検索できる仕組み
- ・申請書の書き方はウェブサイト公開すると同時に、電話窓口など、支援体制の整備
- ・登録情報例：ミッション、事業内容、ロジックモデル、KPI設定、コンプライアンス、社会的指標

●再申請

- ・内定を得た事業者と支援者が一緒になって、ロジックモデルやKPIを設定する。

想定される支援の現状の課題と仮説 ④事業実施

●伴走型支援

文化芸術団体への支援が不十分ではないか。自らの潜在力を引き出す伴走型支援が望ましいのではないか。

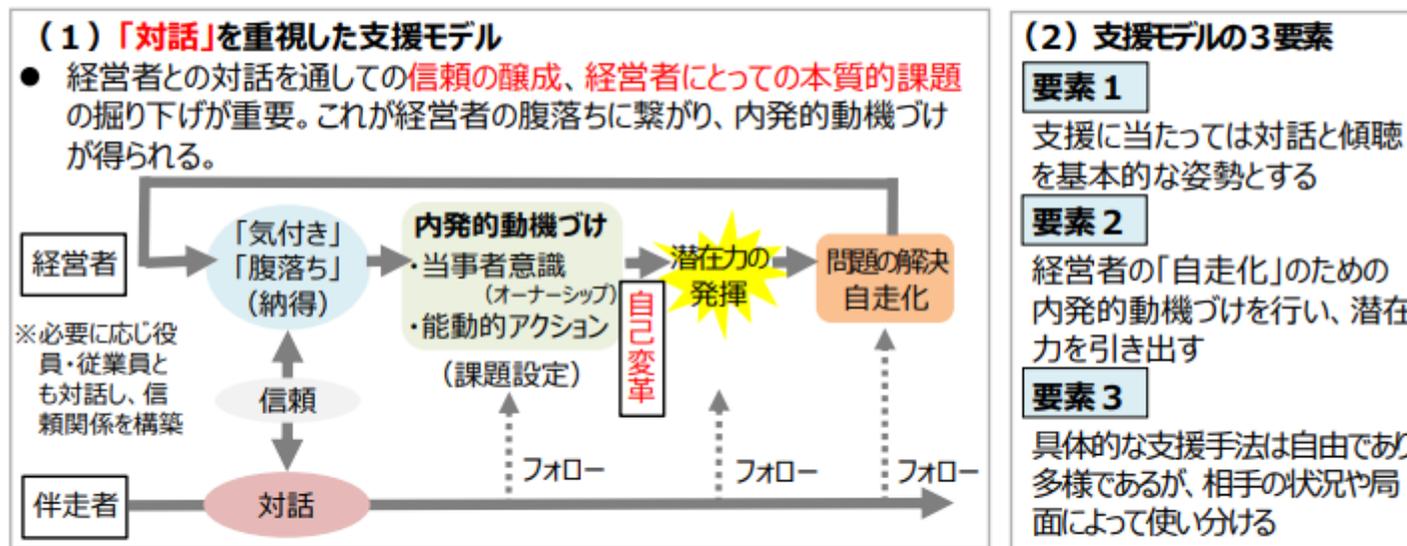
例：経済産業省・経営力再構築伴走支援モデル

Ⅱ 経営力再構築伴走支援モデルのフレームワーク

「経営力再構築伴走支援モデル」

【本モデルの概要】

- 以下①、②により、中小企業・小規模事業者の経営力を強化（経営力再構築）
 - ①課題「設定」のための支援を強化すること（従来からの課題解決策の提供のみならず）
 - ②経営改善・成長のためになすべきことに**経営者が「腹落ち」**することで**潜在力を引き出す**こと



【本モデルの意義・可能性】

- ①中小企業政策の浸透力の強化・裾野拡大
(成長、事業承継、経営改善等の成果に結びつく可能性の向上)
- ②経営者、従業員という「人」への投資

事業の成長、持続的発展を目指す中小企業、小規模事業者
に幅広く裨益

想定される支援の現状の課題と仮説 ⑤ 評価

● 数値目標化できるものはできるだけ数値目標化する必要（下記はミュージアム評価指標の例）

価値	指標	測定方法
使用価値	直接使用（来館）	年間来館者数
	間接使用（アウトリーチサービスの利用）	アウトリーチ活動の参加者数（巡回展の来場者数、講義やワークショップの参加者数） ウェブサイトの利用者数
	エンゲージへの意志（余暇時間の利用意志）	ボランティア数 ボランティア一人当たりの活動時間数 会員数 ボードメンバー、ファンドレイジング団体による無報酬による貢献時間数 来館者あたりの年間平均来館回数
	非使用	来館にかかわらずミュージアムに支払っても良い意志額（WTP）
共同体的価値	信頼ある専門機関としての認識	年間の公的な問合せ件数 ミュージアムの専門家が必要とされる外部のプロジェクト件数
	関係性の構築	ミュージアムと他の政府系機関による地域的、国内的、国際的なパートナーシップの件数 上記パートナーシップによる収入の占める割合、主要なステークホルダーの数
	投資への魅力	政府補助金（現金あるいは還付） スポンサーシップ（現金あるいは人的支援）
	遺贈、寄贈の魅力	寄贈品の数と評価額 遺贈品の数と評価額
手段的価値	教育資源の提供	学生の来館者数 教育機関とのパートナーシップの件数 生涯学習プログラムの提供件数 上記プログラムの参加者数
	知識開発	コレクションに基づく調査に関する出版物の件数 研究費補助金によるミュージアムや大学のプロジェクトの件数と金額
	観光業への貢献	国内旅行者の年間来館者数 海外旅行者の年間来館者数 観光アワードを獲得したミュージアムの数
	地域経済への貢献 ：雇用とサービスの売上	常勤雇用されたスタッフの数 地域のサービスの消費額
	社会包摂	民族的な来館者数と割合 社会経済的な来館者数と割合

想定される支援の現状の課題と仮説 ⑤ 評価

●ベルグレード劇場（英国・コベントリー）の社会的指標の例

劇場との関係	指標
劇場と芸術	<ul style="list-style-type: none"> ● パフォーマンス、ワークショップ、その他のイベントの回数 ● 観客の評価（数値化したもの） ● 専門家の評価 ● 地域の劇団とのパートナーシップの数
劇場とコミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト参加者の自己啓発への影響 ● 学校プロジェクトと地域プロジェクトの数 ● 観客のプロフィール情報 ● 物理的なアクセスの改善
劇場のパートナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 劇場の活動に積極的に関与していると感じているパートナーの割合 ● 地域の組織、民間企業およびその他の種類の組織とのパートナーシップの平均期間 ● 伝統的な劇団の活動以外の劇場での活動の認識率
劇場と街	<ul style="list-style-type: none"> ● 劇場の接客に対する観客による評価 ● 劇場が関与する地元の芸術開発イニシアチブの数 ● 現地取引先の数
劇場の基準	<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフによる雇用主としての劇場の評価 ● パートナーとの平均協力期間

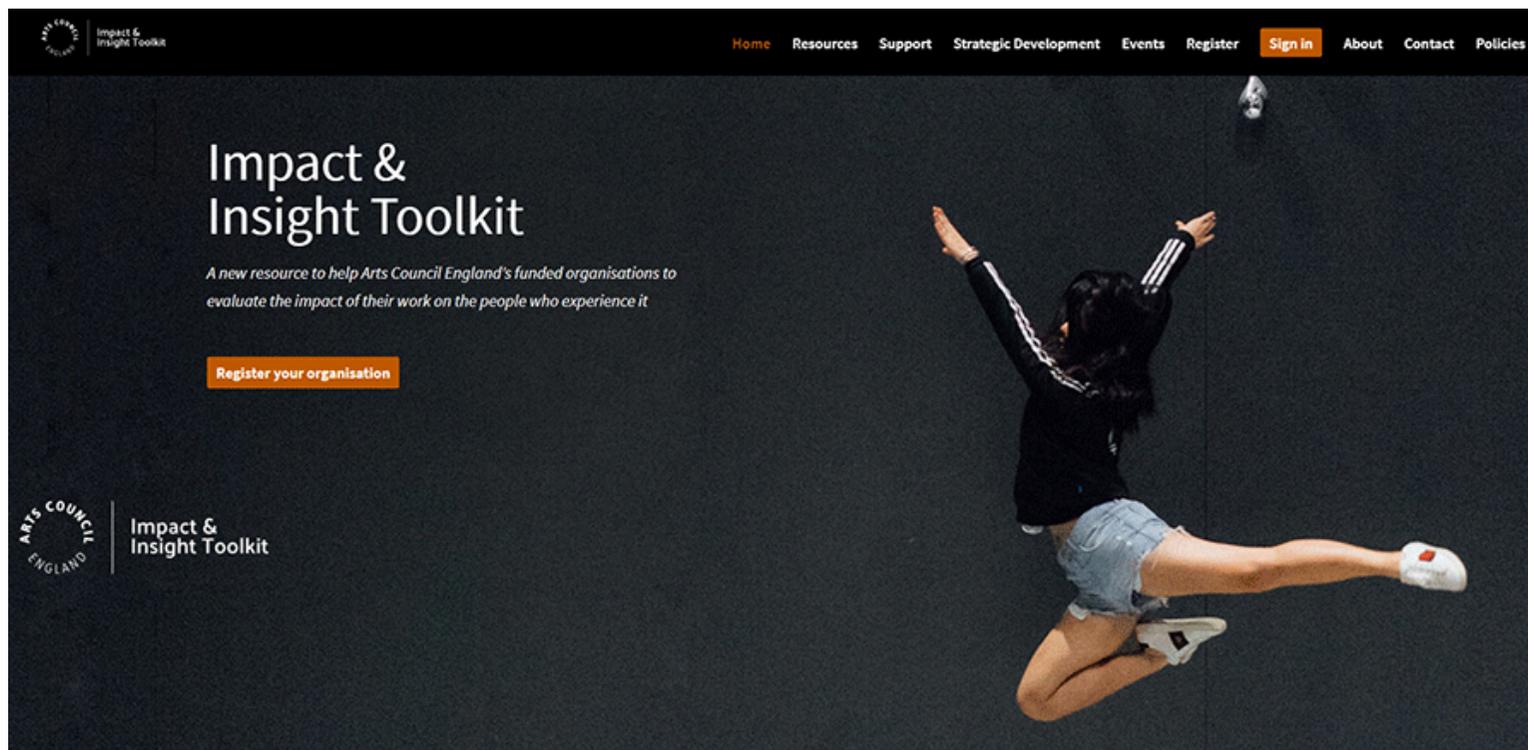
Reeves M. 2002, "Measuring the economic and social impact of the arts: a review"

https://is.muni.cz/el/1456/jaro2009/PVEKMAA/um/Impacts_of_art_Michelle_Reeves.pdf

想定される支援の現状の課題と仮説 ⑤ 評価

- 調査・評価 文化芸術団体のインパクトの設定や計測ができていないのではないか。

例：インパクト&インサイト・ツールキット（アーツカウンシルイングランド）：文化芸術団体や中間支援団体のインパクトの設定から計測までシステム化して文化芸術団体に提供。



What is the Impact & Insight Toolkit?

The Impact & Insight Toolkit provides arts and cultural organisations with a shared approach to evaluating their work. The Toolkit uses sets of metrics to explore what audiences, participants and peers think about a performance, exhibition or project. The resulting insights can be used to inform future practice, whilst helping to build a greater understanding of the cultural sector as a whole.

Download our [Project Summary](#) for more information.

想定される支援の現状の課題と仮説 ⑤ 評価

● 西オーストラリア州政府文化芸術局による公共価値マネジメントフレームワークの例

文化芸術の価値を観客の体験の質（知的好奇心、魅了、繋がり等）とプロダクトの質（卓越性、厳格さ等）の両面から自己、観客、専門家からそれぞれ評価することにより社会的価値を顕在化。

PVMF	合意された指標（*コア）と文言	評価エリア
助成対象がどの程度アーティストや観衆の好奇心を高めたか	知的好奇心：アートをより知りたいと思うきっかけとなった	自己、ピア、観客
	チャレンジ：挑戦的だと考えられるか	自己、ピア、観客
現代においてタイムリーで創造的な企画である	*適切性：何か現代の世界のことを表しているか	自己、ピア、観客
助成対象とコミュニティの関心の繋がり	*魅了：夢中になる、注意を引く	自己、ピア、観客
	繋がり：心を動かされる、やる気にさせる	自己、ピア、観客
助成対象がどの程度新たな地平を切り開いたか	*独創性：新たな地平を切り開いている	自己、ピア、観客
	新規性：これまで経験したものと異なっている	自己、ピア、観客
助成対象が世界的に見て最高峰に位置しているとみなされる	*卓越性（グローバル）：同一分野で世界最上位に位置する	自己、ピア
	*卓越性（国内）：同一分野で国内最上位に位置する	自己、ピア、観客
助成対象はどの程度伝統文化を尊重しているか、あるいは西オーストラリアで唯一の存在か	真正性：在住する州や国と繋がりがある	自己、ピア、観客
アーティストはどの程度新たな芸術的アプローチを積極的に挑戦できているか	*リスク：アーティスト／キュレーターは真に挑戦できているか	自己、ピア、観客
助成対象はどの程度研究や開発に基づいているか	*厳格さ：よく考えられているように見えるか	自己、ピア、観客
助成対象は現実世界に創造的な発想を認識させる能力を示しているか	イノベーション：観客に新たな手法で紹介されているか	自己、ピア、観客
助成対象はどの程度新たな可能性や見方を追求しているか	想像力：新たな視点を追求しているか	自己、ピア、観客

Carnwath & Brown (2014) "Understanding the value and impacts of cultural experiences,"

<https://www.artshealthresources.org.uk/docs/understanding-the-value-and-impacts-of-cultural-experiences-a-literature-review/>

5. 本日議論いただきたいこと

本日のポイント

- 文化芸術への補助金は文化庁予算の約半分
- 文化芸術組織の自律的・持続的な発展を支える補助金の在り方を検討することで、これからの文化行政の在り方をも検討していく必要
- これまでは文化芸術の「本質的価値」向上中心の政策
- 今後は「社会的価値」、「経済的価値」もバランスよく高めていく必要
- 社会的・経済的価値向上に向けた価値の見える化・向上支援策が必要
- 価値の「見える化」はロジックモデル設定等を通して考えていく必要
- 各過程に社会的・経済的視点を持つ専門家を加える必要があるのではないか
- マネジメントや伴走型支援等、業界全体を支える体制整備が今後の課題

本日議論いただきたいこと

補助金の分配方法

(1) 我が国の文化芸術組織の自律的・持続的な成長を促すために、文化行政・補助金制度はどのように在るべきですか。特に、社会的・経済的価値や組織運営に関する客観的な指標やその導入・運用方法について、ご意見ください。

直接的な支援方法

(2) 文化芸術団体の自律的・持続的な成長を促すために必要な公的支援について、内容（伴走型支援、人材育成等）、支援方法・支援体制等の視点からご意見ください。特に、R5年度開始の「文化芸術の自律的運営促進事業」において実証すべき支援策について、ご意見ください。